

佳作

心動かすリオオリンピック

東京都 東海大学菅生高等学校二年 樋口 賛喜

今年の夏、リオオリンピックが開催され、日本はメダルラッシュで大盛り上がりでした。選手たちはたくさん感動を日本中に届けてくれました。

女子レスリングの吉田沙保里選手の戦いには鳥肌が止まらないくらいすごくて、生まれて初めてこんな試合を見たと思います。

その試合は吉田選手の四連覇がかかった世界中が注目した決勝戦でした。相手はアメリカのヘレン・マールリースという選手でした。試合はびっくりするくらいあっという間に終わりました。私は吉田選手の圧勝だろうと思いい込んでいました。しかし、勝者はヘレン選手でした。試合終了の瞬間は何がなんだかよくわからなくて、戦った二人はどちらも大号泣していて、その二人の結果を知った感じでした。試合が終わって吉田選手は家族の元へ行き、泣きながら

「ごめんなさい。」

と言っていて、そのシーンは心から感動したシーンでし

た。普通なら自分の気持ちが上回って「悔しい」などの気持ちを抑え切れないと思うし、「ごめんなさい」とはなかなか素直に言えないような気がします。そして、試合の後のインタビュアーなどでも、ずっと涙しながら「申し訳ない」と言っていて、そんな姿を見ていると勝手に泣けてきました。そんな吉田選手の戦いに文句を言う人なんていないし、誰もがたくさんのありえない程の努力や人柄、メダルに拍手を送り、涙を流しながら希望を与えてくれて元気づけてくれてありがとうという人がたくさんいると思います。

そして、吉田選手を破った選手は何者なんだろうと思いい、調べてみるとそれを見てまた感動しました。ヘレン・マールリース選手は十二歳の時にアテネ五輪で吉田選手を見て、レスリングをやめさせようとする両親を説得し、続けることができたそうです。ヘレン選手にとってずっと夢見てきた、英雄であった吉田選手に勝利して金メダルを獲る為に全てを賭けてきたそうです。ヘレン選手は吉田選手を攻略する為に、吉田選手の試合映像を幾度となく見てそれだけ考えていたと言います。しかし、リオ五輪決勝の場ではいざ吉田選手を目の前にしてみたら、どうやって戦えばいいのかわからなくなりました。それほどの憧れ、強さを感じていたけど、ヘレン選手はただ自分自身を信じ、自分の全てを賭けて前に進みました。ヘレン選手の言葉には

「吉田さんとたたかえることは本当に名誉なこと。だって三つの金メダルを取り、なおりスクを取ってチャレンジを続けてるのよ。彼女は人生の全てをレスリングに捧げてる。ほんとに信じられない選手だわ。研究すればするほど、彼女のことが好きになった。そして思ったの。彼女は私の敵なんかじゃないって。神様は教えてくれたの。『ここにいるのはヘレン、みんな君と同じことを求め、同じ犠牲を払っている女性たちなんだって』また、『君がこれから対戦する相手は憎しみの対象なんかじゃない。むしろ君のすべてを出してぶつかるにふさわしい、尊敬すべき人間なんだ』ってね。」とあります。素晴らしい選手だと思います。そして、金メダルがふさわしい選手だと思いました。吉田選手から夢をもらった十二歳の女の子が今となっては夢を与える側になっていて、本当にスポーツの力ってすごいなと思います。

この夏のリオオリンピックではたくさんの感動をもらいました。勝利の瞬間、今までの辛い練習や過酷な経験が込み上げてきて、倒れ込んで涙する選手や仲間との絆でメダルを掴み取ったり、支えてくれる家族の為に戦う姿はとても感動でした。

スポーツはこんなに人々に元気を与えられ笑顔を届け、夢を与えて感動させる力があり、改めてすごいなと思いました。この夏、自分にとって一番の感動を与えてくれ

た夢や勇気をくれた吉田沙保里選手のように、自分の事より他人の事を気にかけて、人の為になる活動をして、誰もが憧れる、応援したいと思えるような人が、子どもとかたくさんの人たちに勇気を与え、世界で活躍したり、一生懸命な姿を見る度に人は喜び、応援し、夢をもらって、それをもらった人たちが夢に向かって進んで行くことで、どんどん夢は広がっていくんだと知りました。

リオオリンピックでたくさん元気や感動をもらい、とても良かったです。そして、感動とは心の底から感情が溢れて、思わず涙したり拍手したりする事を言うのかなど、知った気がします。